水俣市教育委員会点検・評価報告書

（平成２３年度実績）

平成２４年１０月

水 俣 市 教 育 委 員 会

目次

教育委員会の点検・評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

教育委員の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

点検・評価の結果について
小中学校耐震化推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
学校エコ改修と環境教育事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
学力向上対策事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
いじめ・虐待・不登校児童生徒対策事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
環境教育（学校版環境ＩＳＯ）の推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
日本一の読書のまちづくり事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
人権教育推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
文化会館自主文化事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
公民館自主事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
市民スポーツの推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
第６６回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
給食センターにおける食育・地産地消推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・　26

教育委員会の点検・評価について

１　経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）の一部改正により、平成 20 年 4 月から、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。

この報告書は、これに基づいて点検・評価を行ったものです。

２　点検・評価の対象

点検・評価の対象は水俣市教育委員会に権限に属する事務のうち、重要な政策・事業とされるものを対象としています。

３　点検・評価の方法

点検・評価の方法は、政策事業評価の手法を活用して実施することとしました。

４ 学識経験者の知見の活用

地教行法第 27 条第２項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果について、政策事業評価における市民監査委員２名から意見を伺いました。

＜参考＞

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育委員の活動状況について

１　教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月１回の定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。平成２３年度の開催状況は次のとおりです。

（１） 教育委員会定例会　１２回

（２） 教育委員会臨時会　　４回

２　審議等の件数

（１）審議事項　６１件

審議内容	件数
規則、訓令等の制定又は改廃に関すること	14
職員及び付属機関の委員の任免、その他の人事に関すること	10
議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関すること	4
その他	33

※その他…教科書採択、奨学生の決定、後援の承認など

（２）協議事項　２１件

学校教育努力目標、次回の会議の開催日時など

（３）報告事項　４１件

市議会報告、学校教育活動に関する月例報告、催し物の結果報告など

３　水俣市教育委員名簿

平成２４年３月３１日現在

職名	氏名
委　員　長	濱　田　智　海
委員（委員長職務代理者）	荒　木　由紀子
委　　員	河　田　奈保子
委　　員	田　中　健太郎
委員（教育長）	葦　浦　博　行

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	０１	小中学校耐震化推進事業	
事業期間	平成２１年度から平成２４年度	担当部署	教育総務課

１．政策の目的・目標

学校施設は、多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす学習、生活等の場であることから、地震発生時においては、児童生徒等の人命を守るとともに、被災後の教育活動等の早期再開を可能とするため、施設や設備の損傷を最小限にとどめることなど、十分な耐震性能を持たせて学校施設を整備することが重要です。

そのため、昭和５６年以前に旧耐震基準で建設された学校施設について、耐震診断及び耐震補強工事を実施し、学校施設の耐震性能を確保することを目的とする。

２．投入経費と指標

（1）【投入経費】（単位：千円）

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
事業費　　（A）	30,765	520,215	145,007
換算人件費　（B）	810	1,280	1,280
投入経費　（A+B）	31,575	521,495	146,287
（参考）間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（2）【活動目標】

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
目標	耐震診断 実施設計	耐震補強工事(一小、二小、袋小中、葛渡小中、久木野中、湯出中) 実施設計（二小、水東小）	耐震補強工事(二小、水東小)

■本年度活動目標の説明（事業として何をするか）
耐震診断の実施及び完了
実施設計の実施及び完了
耐震補強工事の実施及び完了

（3）【実績】

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
実績	耐震診断の完了 実施設計の実施	耐震補強工事の完了　８棟 （体育館）一小、二小、袋小、袋中、湯出中、久木野中 （校舎）葛渡小、葛渡中	耐震化工事の完了（二小）

■本年度の実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
水俣第二小学校については、目標どおり工事完了できた。
水東小学校については、不同沈下が判明したため工事を延期することとした。

3．状況評価

（1）成果		点数	理由
	想定以上に成果があがった	4	水東小学校おいて、不同沈下が判明したため、工事を延期した。
	想定どおりの成果であった	2	
○	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－1	

（2）効率性		点数	理由
	大変効率よくできた	3	水俣第二小学校については、目標どおり工事完了できた
○	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
C	2 点

4．今後の方向性（課題と見直し）

（1）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

工事を延期した水東小学校の実施

（2）改善・見直しの具体的内容

児童、関係職員、施工業者等の安全を十分に考慮し、水東小学校の耐震化工事を完了させる。

5．政策に対する意見

（1）市民監査委員

小中学校の耐震化推進事業は、児童生徒等の人命を守ると共に重要な学習・生活等の場の確保に大切なこと。水東小学校の地盤沈下が判明したことにより、工事延期になったが、より正確な耐震補強工事に進展することだろう。

（2）教育委員

確実に学校の耐震化が進められていると感じる。事業終了後も定期的に学校を視察したり、各学校の学校安全点検簿に目を通したりして、施設整備の状況の把握及び学校の安全管理に努めていただきたい。

未来を担う子どもたちが１日の大半を過ごす場であるので、より早い実行・推進を希望する。

残された水東小の工事が無事済むよう、関係の皆様には配慮を願う。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	０２	学校エコ改修と環境教育事業	
事業期間	平成２１年度から平成２３年度	担当部署	教育総務課

１．政策の目的・目標

建物のエコ改修と併せて、子どもたちが学ぶ学校を体感学習の生きた教材として活用できるよう、学校全体で環境教育に取り組みます。

この事業は、単に新エネルギー機器の導入、校舎を省エネ化する施設整備に尽きる事業ではなく、学校の校舎、校庭などをエコ改修するのはもちろんのこと、そのプロセスを通じて、民・官・学が一緒になって、学び、考え、協働し、そして地域一丸となって、地球温暖化防止を実践していく事業です。

２．投入経費と指標

（１）【投入経費】

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
事業費　　（A）	592	109,938	560,228
換算人件費　（B）	1,620	4,158	4,158
投入経費　（A+B）	2,212	114,096	564,386
（参考）間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（２）【活動目標】

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
目標	環境建築研究会及び環境教育研究会の設置並びに学校における環境調査の実施。	・エコ改修検討会の実施 ・設計者選定 ・環境教育検討会の実施 ・夏、冬の事前環境調査の実施	・工事 ・環境教育検討会の実施 ・成果物の作成

■本年度の活動目標の説明（事業として何をするか）

今年度は、エコ改修工事を行なう。工期は、夏休みから２学期中を予定している。工期期間中、水俣第一小学校を仮設校舎として使用するため、夏休み及び冬休みに引越しを要する。また、環境教育検討会を６回実施する。また、昨年度行なった環境教育検討会で習ったことを生徒達へ先生方が計画を立てて授業を行なう「すまいと環境」の取り組みも引き続き継続する。

（３）【実績】

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
実績	同研究会実施体制づくり並びに同環境調査の実施	エコ改修検討会の実施（6回） プロポーザルにより設計者選定（風設計室） 環境教育検討会の実施（３回） 夏、冬の事前環境調査の実施	・エコ改修工事の完成 竣工：建築主体工事・12/27 電気設備及び機械設備・3/13） ・環境教育検討会の実施（6回） ・成果物（環境教育の計画）の完成

■本年度の実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

・エコ改修工事は、予定通り２学期中に校舎部分について完成し、３学期を新校舎で迎えることができた。環境教育検討会についても予定通り６回実施することができた。なお、成果物については、「すまいと環境」の計画という形で作成することができた。これを用いて次年度以後も環境教育を引き続き行なっていきたいと考えております。

3．状況評価

（1）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	夏休みから本格的に工事が始まり、工事施行業者のがんばりにより、１２月中に建物の工事が完了し、3学期を新校舎で迎えられたことが、とても良かったと思うからです。引越しについても、学校の協力によりスムーズに行なうことができたためでもある。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－1	

（2）効率性		点数	理由
	大変効率よくできた	3	環境教育について、環境教育検討会を予定通り６回実施した。そのうち３回は市内の全小中学校の環境担当者の先生方を交えて実施することができた。さらに、事務局（モードフロンティア）のサポートにより環境教育検討会で先生方が学習した環境教育のやり方を実際に生徒に授業する「住まいと環境」を、総合学習時間を用いて６回実施することができた。
○	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
A	6　点

4．今後の方向性（課題と見直し）

（1）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

次年度、事後環境調査を環境調査会社及び熊本県立大学により実施する予定である。
今回の改修には、夏は夜にも窓を開閉したり、緑化ルーバーによる西陽の遮熱を行ない、冬は教室入口や廊下の断熱部分の仕切り部分に扉を設置しており、それを閉めることで断熱効果をさらに高めるよう工夫されている。これらは、使い方を知って正しく使わないと、効果が半減してしまう恐れがある。このため、今後、職員や生徒が入れ替わっていっても使い方を継続して周知していかなければならない。

（2）改善・見直しの具体的内容

補助事業としての学校エコ改修と環境学習は終了するが、4月に職員の入れ替わりがあるのでその時点で先生方へエコ改修に係る環境研修を学校で行なう。また、生徒達に対しても総合学習の時間等を実施しながら、校舎の使い方や効果などに係る環境教育を行う。実際に次年度は事後環境調査を実施するので、使い方による効果について、実際に数値と比較することができる。今後、学校、環境調査会社と協議を行いながら、引き続き環境教育を続けていくよう尽力していきたい。

5．政策に対する意見

（1）市民監査委員

エコ改修された施設・設備の効果を、今後有効利用するために、環境教育検討会（6 回）「住まいと環境」の総合学習（6回）が実施され、万全を期したことはよかった。この施設を末永く利用する他と共に、維持管理にも努めてもらいたい。エコ改修された効果を情報として他校や地域に伝達して欲しいです。改修前改修後の実際の数値が表れればよい。モデル校なので、いつまでも美しく使って欲しい。

（2）教育委員

改修が円滑に終了し、関係の方々の尽力に敬意を表する。第一中学校も環境をキーワードとした学校経営がなされており、水俣市全体の環境教育の推進役となることを期待している。

子ども達の学業に支障が少ないように、また、工事期間短縮のため、一小への引越しは最適な手段でがんばられたと思う。

大変すばらしい校舎になり、環境教育の充実が図られた。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	０３	学力向上対策事業	
事業期間	平成２２年度から平成２４年度	担当部署	教育総務課

１．政策の目的・目標

水俣市の児童生徒の学力充実・向上は、保護者も市民も指導する教師も願うところである。水俣市学校教育努力目標像を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、その実現に向けて、各学校では、学校や地域の実態に即して教育目標を定め、適切な教育計画のもと、具体的な実践をとおして、教育目標達成の実現に努めるものである。児童生徒の学力充実・向上に向けて、教師の資質の向上や授業力の向上、地域に開かれた学校運営を目指し、様々な角度から目的・目標に迫れるよう事業を推進する。

２．投入経費と指標

（1）【投入経費】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
事業費　　（A）	3,288	3,288	3,288
換算人件費　（B）			
投入経費　（A+B）	3,288	3,288	3,288
（参考）間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（2）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
目標	学力向上宣言に基づき、具体的実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。	学力向上宣言に基づき、具体的実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。	

■本年度の活動目標の説明（事業として何をするか）
・　水俣市学力向上宣言に係る各学校の具体的実践について取組状況を具体的に評価し、改善策を提言する。
・市指定学力向上研究成果発表会（水二小）開催
・第７回みなまた教育フォーラムの実施
・学校のニーズをふまえた教育セミナーの実施

（3）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
実績	学力向上プロジェクト会議、資質指導力向上対策委員会の実施、市指定学力向上研究成果発表会（袋中）開催、第６回みなまた教育フォーラムの実施	学力向上プロジェクト会議、資質指導力向上対策委員会の実施、市指定学力向上研究成果発表会（水二小）開催、第７回みなまた教育フォーラムの実施	

■本年度の実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
・活動目標に掲げた内容は、全て実施できた。

３．状況評価

（１）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	４	熊本県学力調査結果を指標の中心として掲げていたが、小学３年、４年を除き、想定どおり又は、想定以上の結果となった。 みなまた教育フォーラムの全体会が、水俣市全体の学力向上に対する提言ができ、参加者の評価も高かった。
	想定どおりの成果であった	２	
	想定を下回った	０	
	想定を大きく下回った	－１	

（２）効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	３	研修回数は最小限に抑えながらも、セミナーやフォーラムにおいて参加者にとって効果的な内容を構成できた。 水俣二小の研究発表会も学校総体としての取組が見られ、学力向上という成果も伴っていた。
	概ね効率よくできた	２	
	効率がよくなかった	１	
	全く効率が悪かった	０	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
B	5　点

４．今後の方向性（課題と見直し）

（１）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

・熊本県学力調査において、全ての学年で県平均定着率を上回る項目を増やす。
・みなまた教育フォーラム及び、教育セミナーについて、目的を再確認し、研修内容を改善する。

（２）改善・見直しの具体的内容

・熊本県学力調査において、中学校は今年度８０％の項目で県平均定着率を上回ることができたので、平成２４年度も引き続き、８０％以上の項目で、県平均定着率を上回ることを目指す。また、小学校は、県平均定着率を上回る項目が、約４０％にとどまっていたので、平成２４年度は、５０％以上の項目で、県平均定着率を上回ることを目指す。
・学校の実態や教職員のニーズをふまえたみなまた教育フォーラム及び、教育セミナーを実施する。
た

５．政策に対する意見

（１）市民監査委員

熊本県学力調査における県平均定着率以上の項目で、中学校の８０％以上は申し分ない。小学校の約４０％はやや低く、今後の努力を期待。児童生徒の学力充実・向上は学校教育のみでは不十分で、家庭教育や地域の協力も必要。

全校を一つの目標に向けて教育することは、大変なこと。教師の指導力が問われる。平成２３年度の活動目標を全て実現できたのは、すばらしい。

（２）教育委員

教師の資質や授業力の向上に大きく成果が出ていると感じる。今後は、学校教育の充実ばかりでなく、文化事業の充実や、家庭・地域の教育力向上を図る施策により児童生徒の学力向上につながるようにしたい。

目標達成はすばらしいが、学力向上プロジェクト会議、資質指導向上対策委員会の実施内容など、事業の見直しの時期に来ていると考える。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	０４	いじめ、虐待、不登校児童生徒対策の充実	
事業期間	平成２２年度から平成２４年度	担当部署	教育総務課

１．政策の目的・目標

いじめ、虐待、不登校の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、適応指導水俣教室を中心とした取組を段階的に発展させ、関係機関のネットワークの構築を図りながら取組を進める

２．投入経費と指標

（1）【投入経費】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
事業費　　（A）	2,550	2,550	2,550
換算人件費　（B）	540	540	540
投入経費　（A+B）	3,090	3,090	3,090
（参考）間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（2）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
目標	関係機関とのネットワークを深め、いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒への効果的な取組を行う。	関係機関とのネットワークを深め、いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒への効果的な取組を行う。	

■本年度の活動目標の説明（事業として何をするか）
・自立支援事業推進協議会の３つの部会を中心とした、いじめ・不登校防止及び、虐待の早期発見、防止の取組を推進する。
・適応指導水俣教室による、不登校及び不登校傾向児童生徒への支援を充実させる。

（3）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
実績	①「問題を抱える子ども等の自立支援事業推進協議会」で3つの部会の設立②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施(4回)④自立支援フォーラムの実施	①自立支援事業推進協議会での3部会の取組推進②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施(3回)④適応指導水俣教室における支援	

■本年度の実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
・虐待に関するチェックシートの作成と 2 つの小中学校でのワークショップの開催を行った。
・自立支援事業推進協議会での３部会の取組の確実な実施ができた。
・適応指導教室における不登校傾向生徒への積極的な関わりを行った。

３．状況評価

（１）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	昨年度と比較して不登校児童生徒の数の減少が見られた。 虐待に関するチェックシートについて、水俣市内の全ての教職員に周知することができた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－１	

（２）効率性		点数	理由
	大変効率よくできた	3	自立支援事業推進協議会の研修回数は減ったが、内容は充実していた。 不登校児童生徒の数は、昨年度と比較して減少しているが、年度末になって増加傾向にある。
○	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
A	6　点

４．今後の方向性（課題と見直し）

（１）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

・自立支援事業推進協議会の研修回数は平成２３年度同様であるので、内容を工夫し、学校に還元できるようにする。
・不登校児童生徒の数を、平成２３年度と比較して減少させる。

（２）改善・見直しの具体的内容

・自立支援事業推進協議会の三つの部会からの提案の機会を持ち、取組の評価及び改善を行う。
・不登校児童生徒の数を、平成２３年度と比較して３人以上減少させる。

５．政策に対する意見

（１）市民監査委員

自立支援事業推進協議会での３つの部会で、いじめ・虐待・不登校防止の早期発見、防止に取り組み、さらに連携により課題解決に努めており、また、適応指導水俣教室における不登校及び不登校傾向児童生徒への支援も充実しており、すばらしい。

一人一人への指導は時間がかかり大変だが、短気にならずにゆっくり指導してほしい。

（２）教育委員

適応指導教室の取り組みをはじめ、施策としての効果を発していると感じる。しかし、複雑な社会環境の中で、教育に関する問題は増えてくると思われ、予防対策から事故発生後の対策まで、福祉や医療、自治会等とのネットワークなど、市全体で取り組んでいく必要がある。

早期発見、早期対応のため、各機関との連携強化と報告・連絡・相談の徹底、適応指導教室の充実をお願いしたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	０５	環境教育（学校版環境ＩＳＯ）の推進	
事業期間	平成２２年度から平成２４年度	担当部署	教育総務課

１．政策の目的・目標

本市は環境モデル都市に指定され、各学校における環境教育の推進にもさらに取り組んでいく必要がある。これまでも学校版環境ＩＳＯの取組は実施しており、今後はCO2削減も視野に入れた環境教育の充実を図っていく。

２．投入経費と指標

（1）【投入経費】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
事業費　　（A）	300	300	300
換算人件費　（B）	0	0	0
投入経費　（A+B）	300	300	300
（参考）間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に27千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（2）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
目標	各学校における学校版環境ＩＳＯの取組等を充実させる。	1.各学校における学校版環境ＩＳＯの取組の充実及び環境教育の充実を図る。 ２．研究指定校（湯出小学校）の発表により啓発を図る。	各学校における学校版環境ＩＳＯの取組の充実及び環境教育の充実を図る。

■本年度の活動目標の説明（事業として何をするか）

各小中学校において、学校版環境ＩＳＯの取組を継続して実施し、成果を上げてきた。

水俣市は、環境モデル都市の指定を受けたことから、これまでの学校版環境ＩＳＯの取組をさらに進展させ、特にＣO2削減についても、児童・生徒に目的意識を持つた取組を継続させる必要がある。今後、授業や集会活動など色々な機会を捉えて、大切さを理解させ、環境に対する高い意識を持つよう指導し、実践できるよう教育していく必要がある。

また、研究指定校による研究推進も必要である。

（3）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
実績	①年３回の市小中学校環境教育担当者会の実施 ②環境教育研究指定校に湯出小を指定し、研究推進を実施③全小中学校による環境ＩＳＯコンクールへの参加	①年３回の市小中学校環境教育担当者会の実施。②環境教育研究指定校に湯出小学校を引き続き指定し、研究推進を実施。③全小中学校による環境ＩＳＯコンクールへの参加	

■本年度の実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

平成２３年度も年３回市内小中学校の環境担当者会が環境教育検討会の中で開催され、各学校の担当者の資質の向上に努めることができた。

学校版環境ＩＳＯコンクールにも、すべての小中学校が参加し、水俣第一小学校及び水俣第一中学校が、優秀賞を受賞した。また、湯出小学校が平成２４年１月２７日第１２回環境美化教育優良校等表彰の小学部門において、特別優秀校（根本美緒アドバイザリーフェロー賞）を受賞した。

各小中学校においては、ＣO2削減に視点を置きながら、校内環境整備の活動にも成果が見られる。

３．状況評価

（１）成果		点数	理由
	想定以上に成果があがった	4	児童生徒の ISO の取組について、自主的に取組むことについて、関心が高まってきている。また、このことに関連して、保護者の意識も徐々に高まってきている。
○	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－１	

（２）効率性		点数	理由
	大変効率よくできた	3	児童生徒を全体的に ISO の意識の高まりを考えるとき、個人差も出ている。 無関心な児童生徒もいるため、いろいろな働きかけをとおして、環境の大切さを意識させ、環境教育の実践を図っていくようにしたい。
○	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
B	4　点

４．今後の方向性（課題と見直し）

（１）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

二酸化炭素排出量の削減について、何を、どのように削減していくのかを、目に見えるような目標と表示があると意識しやすいように思う。
職員及び児童生徒の環境教育を継続して実践できるようにし、多くの人々が、校内研修に参加できるよう図っていくことが必要である。
研究指定校（小学校）の発表により、各学校の環境教育の啓発を図っていく。

（２）改善・見直しの具体的内容

環境教育活動について、ある程度の成果には目を見張るものがあるが、基本的な自分の物を大切にすること、地球に優しい行動ができるようにすることなどが、全部に十分浸透していないと思われるので、学校版 ISO の取組を継続させ、「環境保全の大切さ」等、家庭や地域にも意識が高められるよう図っていきたい。

５．政策に対する意見

（１）市民監査委員

本年度も、全小中学校が環境 ISO コンクールへ参加したことはすばらしいこと。その中で、水一小、水一中の優秀賞受賞はうれしい。児童生徒の環境活動に限りがあるが、環境に優しい社会づくりを目指して子どもたちを指導してほしい。
環境に対する意識は高まっているが、取り組みがマンネリ化しない様に工夫してほしい。
今後の方向性は改善につけているが、このまま維持でよい。

（２）教育委員

水俣市の児童生徒の環境への関心及び実践は秀でているように思う。それに奢ることなく常に課題意識を持って、より先進的に取り組んでいく方策の検討が必要だと思う。
形骸化しないような工夫をお願いしたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	０６	日本一の読書のまちづくり	
事業期間	平成２１年度から平成２３年度	担当部署	生涯学習課図書館

１．政策の目的・目標

平成20年度策定の日本一の読書のまちづくり推進計画に基づき、「すべての市民が読書に親しみ、人生をより深く生きる生命（いのち）安らぐまち」を目指して、図書館を核として家庭や学校、地域での読書活動を振興している。さらに、第2回みなまた環境絵本大賞募集事業を実施し、広く全国に応募者を募り、大賞を読書活動が次世代のこども達へ未来を託す基盤づくりに大いに役立つものとして、また、高齢者の生涯学習の一環として、読書活動を通して、市民が心豊かに暮らせるまちづくりを推進していく
。

２．投入経費と指標

（１）【投入経費】

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
事業費　　（A）	5,956	3,494	7,986
換算人件費　（B）	12,960	8,624	6,192
投入経費　（A+B）	18,916	12,118	14,178
（参考）間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（２）【活動目標】

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
目標	みなまた環境絵本大賞（仮称）事業の実施 水俣市読書のまちづくり推進計画の実施	みなまた環境絵本大賞事業の推進 水俣市読書のまちづくり推進計画の具体的取組の実施	図書館情報システムの導入 みなまた環境絵本大賞事業 コンビニへのブックポストの設置 「みなよむ号」の活動推進 ぐるりんぱブックスタート事業 読書のまちづくり推進計画の具体的取組の実施

■本年度の活動目標の説明（事業として何をするか）
・図書館図書情報システムリプレイス事業
・みなまた環境絵本大賞作品募集事業
・ぐるりんぱブックスタート事業
・コンビニエンスストア及び市役所へのブックポストの設置事業
・動く絵本館みなよむ号の派遣事業
・まちかど図書コーナー事業

（３）【実績】

	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
実績	みなまた環境絵本大賞実施（作品決定） 学校図書館ボランティア事業の実施 ブックスタート事業・まちかど図書館 動くえほん館「みなよむ号」の活動	みなまた環境絵本大賞 「ひょっこりじぞう」3月出版。 ぐるりんぱブックスタート事業 まちかど図書コーナーの設置 動く絵本館みなよむ号活動推進 親子２０分間「家読」の推進	図書館情報システムのリプレイス みなまた環境絵本大賞（募集）事業 コンビニへのブックポストの設置 「みなよむ号」の活動推進 ぐるりんぱブックスタート事業 読書のまちづくり推進計画の具体的取組の実施

■本年度の実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
・図書情報システムのリプレイスに伴い図書情報サービスの質の向上を図り、また、インターネット検索機器や図書館情報を提供する大型ディスプレイ設置し、利用者へのサービスの充実を図った。（H24.1 月稼動）
・第２回みなまた環境絵本大賞の原文を募集し、大賞作品を決定した。また、今回から創設した市民賞などそれぞれ受賞作品が決定した。（応募総数：126 件うち市民賞は 20 件）
・市内コンビニ及び市役所へブックポストの設置を行い、利用者の利便性の向上に努めた。
・みなよむ号の派遣活用によって、市内保育園の毎月の「絵本の日」が定着してきた。また、市内商店街振興等のイベントにも活用されるなど幅が広がってきた。（H23 年度実績：40 回、2116 件）
・ぐるりんぱブックスタート事業は津奈木町と合同で実施しており、スタートから４年が過ぎた。４ヶ月乳児健診時絵本１冊を贈呈（4,6 ヶ月乳児に読み聞かせを行う）：総計：231 冊（水俣市：198 冊、津奈木町：33 冊）

3．状況評価

（1）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	図書情報システムのリプレイスに伴い、インターネット検索器を設置するなど図書館サービス向上に努めた。また、みなまた環境絵本大賞への市民の参加を促進するために、小中学生、市民を対象に創作童話のワークショップを開催した。さらに、市内コンビニエンスストア、市役所にブックポストを設置したが、利用者の利便性が向上し好評である。また、ぐるりんぱブックスタート事業や動く絵本館みなよむ号の活用により親が絵本の読み聞かせをする家庭が増えている。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－1	

（2）効率性		点数	理由
	大変効率よくできた	3	具体的な取組みを実施している中で、図書館を核として、地域や学校、家庭の読書活動の推進は重要である。特に、スクールライブラリーでは、幼稚園には絵本を、各小中学校図書館には児童書等の配布を行い、不足する図書の補填を行っているところである。また、地域公民館へは、身近に本に触れる機会として、まちかど図書コーナーを設けてリサイクル本の活用を図るなどしている。
○	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
A	6　点

4．今後の方向性（課題と見直し）

（1）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

・日本一の読書のまちづくり推進計画に基づき具体的事業を展開している。しかし、図書館を核として、地域や家庭、学校との連携については、まだまだ広がりが薄いと思われる。今後の課題としては、地域（まちかど図書コーナーの設置）、家庭（ノーテレビ、ノーゲームの普及）、学校（朝読書、スクールライブラリーの実施）等での読書活動についてのさらなる連携を図ることが課題である。
・みなまた環境絵本大賞は、募集要項等事業の見直しを行い、23 年度において、新たに市民賞を設け、ワークショップを開催するなど市民参加型の事業内容に変更した。全国から 126 件の応募があったうち、市民から 20 件の応募があり、それぞれに賞が決定した。今後は、より多くの市民や全国からの応募者を増やすために、募集のＰＲ等の見直しや工夫が必要である。また今後は、事業の継続性を高めるための実施計画を作り上げていく。

（2）改善・見直しの具体的内容

・スクールライブラリーは、当初、開始から５年間の実施期間を設定してあったが、学校図書館の図書の不足を補填するなど支援するうえで継続する必要があると判断し、６年目となった。しかし、その取扱いは学校によって異なるため配本し回収する際に、図書館職員の業務に影響が出ている。学校でのスクールライブラリーへの関わり方について、改善、見直しが必要であり、そのために、学校図書担当者へのアンケート等を実施する。
・地域、家庭、学校における読書活動を推進するうえで、図書館からの図書資料案内などの情報発信、読書活動推進の啓発、地域でのみなよむ号の活用やまちかど図書コーナーの更なる増設など具体的な取組みを進めていく必要がある。
・貸出冊数の増加に繋がるよう図書新刊案内、人気の本や人気作家等図書館情報を定期的に提供していく。

5．政策に対する意見

（1）市民監査委員

日本一の読書のまちづくり推進計画により、たくさんの事業を展開し、全市民が読書に親しみ、読書活動を通して市民が心豊かに暮らせるまちづくりを推進している。本年度は、みなまた環境絵本大賞への市民参加を促進するために市民賞を創設し、創作童話のワークショップの実施はすばらしい。

（2）教育委員

図書館における斬新な企画やアイデアある図書レイアウト等、職員の方々の意欲を感じ、年々図書館が進化しており、うれしく思う。しかし、蔵書の古さ・少なさ、図書館の狭さは否めないので、この事業をさらに充実させていくためには、特別な予算的措置が必要と感じる。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	０７	人権教育推進事業	
事業期間	平成２２年度から平成２４年度	担当部署	生涯学習課

１．政策の目的・目標

本市においては、重大な人権課題として水俣病問題を抱えている。この課題に対しては、環境問題という側面も含め、様々な取り組みがなされているが、そのために問題が特化され、水俣病問題以外のあらゆる人権問題とのつながりを理解する妨げになっている傾向も見受けられる。あらゆる人権問題、差別の根底にあるものを理解することで、市民の人権意識の高揚を図り、そのことが人権問題としての水俣病の解決につながっていくものと考えられる。

２．投入経費と指標

（1）【投入経費】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
事業費　　（A）	2,059（1,191）	2,078(1,238)	3、931(3,091)
換算人件費　（B）	5,076	5,076	5,076
投入経費　（A+B）	7,135	7,154	9,007
（参考）間接事業費	0	0	0

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（2）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
目標	1）ヒューマンライツ・セミナーの実施 2）出前講座の実施	1）ヒューマンライツ・セミナーの実施 2）出前講座の実施 3）教職員等を対象とした水俣病啓発事業の実施	1）ヒューマンライツ・セミナーの実施 2）出前講座の実施 3）教職員等を対象とした水俣病啓発事業の実施

■活動目標の説明（事業として何をするか）
1）中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナーを７月から３月まで実施し、部落差別問題、ハンセン病など現地学習を行いながら学習を深める。
2）地域人権教育指導員による市内の各団体（高齢者教室、地域リビングほか）をはじめとする出前講座の開催。
3）NPO 法人や水俣病語り部と共同で各教育事務所管内教職員に水俣病啓発を行う。

（3）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
実績	1）ヒューマンライツ・セミナーの実施 2）出前講座の実施	1）ヒューマンライツ・セミナーの実施 2）出前講座の実施 3）教職員等を対象とした水俣病啓発事業の実施	

■実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
1）中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナーを７月から３月まで実施し、部落差別問題、ハンセン病など現地学習を行いながら学習を深めた。市内全中学校から９人参加。
2）地域人権教育指導員による市内の各団体（高齢者教室、地域リビングほか）をはじめとする出前講座の開催を行った。（市外 11 市町村）
3）NPO 法人や水俣病語り部と共同で県内各教育事務所管内教職員に水俣病啓発を行う。（5ヶ所）

3．状況評価

（1）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	ヒューマンライツ・セミナー、地域人権教育指導員による市内外での出前講座など積極的に人権啓発を図っている。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－1	

（2）効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	少ない人員で取り組んでいるが、質・量の向上も図られ、活動量も増加している。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
A	7　点

4．今後の方向性（課題と見直し）

（1）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

市外の地域の方々には水俣病をはじめとする人権の講演や参加体験型学習を行うとともに、県内の教職員を対象とした水俣病啓発事業の実施を行った。
地元においては、中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナーの実施、水俣芦北地区人権教育研究大会の企画及び分科会の講師を努められた。中学生以外の年齢層において、更なる啓発が望まれる。

（2）改善・見直しの具体的内容

地元における中学生以外の年齢層の更なる啓発推進として、公民館事業における市民教室での講座開設や高齢者教室などにおける人権講座の実施等が考えられる。

5．政策に対する意見

（1）市民監査委員

ヒューマンライツセミナー、出前講座、水俣病啓発事業の実施を通して人権教育推進が行われている。今後も、なおいっそうの市民の人権意識の高揚の推進を望む。
目に見えない教育で実施するのが大変でしょうが、まずは先生方がしっかりと内容を理解して、先が見えない問題に向かってがんばってほしい。

（2）教育委員

市民全体の人権意識の高揚のために、更なる啓発事業の推進と指導者育成に御尽力いただきたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

事業名	０８	文化会館自主文化事業	
事業期間	平成２２年度から平成２４年度	担当部署	生涯学習課

１．政策の目的・目標

目的：生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化向上を図る。
内容：文化会館における公演の実施
芸術劇場…児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。
一般公演…音楽、演劇、落語、伝統芸能、舞踊その他様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りがないように選定、１～２本の上演を行う。
単なる一方的な鑑賞にとどまらず、プロに学んだりジョイントコンサートを行ったりするなど,住民参加型の催しも積極的に取り入れていく。

２．投入経費と指標

（1）【投入経費】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
事業費　　（A）	5,536	2,129	6,000
換算人件費　（B）	3,294	4,860	未定
投入経費　（A+B）	8,830	6,989	未定
（参考）間接事業費	2,200	0	未定

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（2）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
目標	公演２本の実施	公演２本の実施 劇団四季との共催による児童招待公演１本の実施	水俣演奏家協会との共催による第九演奏会（住民参加型・合唱団は一般募集） 小学校芸術劇場(クラシックコンサート）の実施

■活動目標の説明（事業として何をするか）
２３年度の一般公演は、宝くじの助成によりコンサートを開催する。出演アーティストと共演する市民合唱団を公募し、住民参加型の企画も盛り込む。
中学校芸術劇場は、楽器の生演奏を用いた新しいタイプの「音楽劇」を開催する。楽器の生音と役者の演技とを両方味わう内容である。
劇団四季から児童の無料招待公演の話があったため、共同で開催する。日本を代表する劇団の優れた作品により、児童らの情操を涵養する。

（3）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
実績	小学校芸術劇場（ミュージカル）・劇団わらび座ミュージカル公演実施	宝くじまちの音楽会「南こうせつ with ウー・ファン～心のうたコンサート～」、中学校芸術劇場（音楽劇）音楽劇「走れメロス」、こころの劇場･劇団四季ミュージカル(小学生無料招待）実施	

■実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
◎宝くじまちの音楽会「南こうせつ with ウー・ファン～心のうたコンサート～」（９月２日）チケット一般席完売、入場率 98.6%。目標 80%を達成。また、一般募集した「共演合唱団」は、４０人が集まり、４回の練習を経て、楽しい振り付けや見事な歌で会場を盛り上げ、共演を果たした。
◎中学校芸術劇場　パフォーマンスバンド響による音楽劇「走れメロス」（１１月３０日）
市内全中学生が観劇。生演奏を活かした斬新な舞台に、熱心な観劇の姿があった。
◎「こころの劇場」劇団四季ミュージカル「ユタと不思議な仲間たち」（2月１４日）
劇団四季との共催。市内全小学校４～６年生を無料招待した。舞台に見入る児童らの熱心な姿があった。

３．状況評価

（１）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	一般公演は、チケットほぼ完売、入場率も 98.6%と高かったが、それだけでなく、合唱団参加者と市内の合唱団体との交流が深まり、合唱団体の定期演奏会に出演するなど、想定以上の効果があった。一公演限りではない、今後につながる、発展性を持った企画となったといえる。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－１	

（２）効率性		点数	理由
	大変効率よくできた	3	最小限の人数で、準備作業に取り組むことができ、滞りなく公演を実施することができた。
○	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
A	6 点

４．今後の方向性（課題と見直し）

（１）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

効果的な演目の選定と住民参加型公演の提供

かつて好評を得たものに演目を集中すると偏りが生じ、知名度のあるものは公演料が高くなる。限られた予算の中で、関心を抱かせるような演目を選定し、広報していくことが課題である。

方向性としては、今回の住民参加型の企画（宝くじ公演）が想定以上の効果を生んだため、これを参考として、住民が参加できるような企画、興味をひくような企画を盛り込んでいきたい。

（２）改善・見直しの具体的内容

集客率や観客の反応など、今年度は大きな効果を得たが、宝くじ助成による有名歌手の公演や著名な劇団からの招待などの好機に恵まれたためだった。

市民の関心を高める公演を実施するため、時流に応じたもの、わかりやすいものを選定したり、社会教育委員の方々の意見を伺ったり、助成・補助等を利用し予算を増強したりして選定していきたい。

５．政策に対する意見

（１）市民監査委員

一般公演（宝くじ助成心のうたコンサート）は入場率も高く、市民参加による合唱団の共演もありすばらしい企画だった。市民参加型の公演開催により、今まで以上の市民の教養及び文化向上につながったようだ。

中学校芸術劇場（走れメロス）は生演奏を活かした斬新な舞台を味わうことができてよかったこれからも市民が喜ぶような公演を実施してほしい。

（２）教育委員

良いものを鑑賞する機会が少ない地方は、文化的な資質を高めるのに不利である。予算確保の難しさもあるので、さらに文化庁や文化振興団体等と連携し、質の高い公演等を行うことで、心豊かな市民生活づくりに努めていただきたい。特に児童生徒には定期的に本物の舞台を鑑賞させたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

政策事業名	０９	公民館自主文化事業	
事業期間	平成２２年度から平成２４年度	担当部署	生涯学習課

１．政策の目的・目標

公民館は、多様な学習機会や集会の場を提供し、地域における住民の学習需要に総合的に応えている。

また、地域社会の形成や地域文化の振興にも貢献し、住民の日常生活に最も身近な学習のための施設の役割も果たしてきている。

今後も学習機会の充実のため、公民館が中核的な役割を果たしていくことが求められる。

２．投入経費と指標

（１）【投入経費】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
事業費　　（A）	1,168	2,076	2,426
換算人件費　（B）	540	756	783
投入経費　（A+B）	1,708	2,832	3,512
（参考）間接事業費	691	715	932

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（２）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
目標	市民教室　14 回（月 2 回）（3,500 人） 高齢者教室　10 回（月 1 回）（900 人） フェスティバル　（1,200 人）	市民教室　18 回（月 2 回）（5,000 人） 高齢者教室　10 回（月 2 回）（800 人） フェスティバル（1,200 人）	市民教室　17 回（月 2 回）（4,500 人） いきいき教室　10 回（月 1 回）（800 人） フェスティバル（1,200 人）

■活動目標の説明（事業として何をするか）
★市民教室：本館　料理、書道、パッチワーク、絵染、健康ダンス、フラダンス（2 講座）社交ダンス、絵てがみ、ギター、音読、活花、ハーモニカ、環境、古文書、太極拳３B 体操、日本文学、パソコンの 19 講座の平均出席率 75%。
分館　活花（2 講座）書道、ペン字、料理、中国語、パンの 7 講座の平均出席率 78.3%。
★高齢者教室：主に高齢者を対象に月 1 回計 10 回の講演を実施した。

（３）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
実績	市民教室　14 回（月 2 回）（3,016 人） 高齢者教室 10 回（月 1 回）（675 人） フェスティバル（900 人）	市民教室　18 回（月 2 回）（4,944 人） 高齢者教室　10 回（月 2 回）（813 人） フェスティバル（1,830 人）	

■実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
参加人員でも分かるように、大まかに目標を達成した。
生涯学習フェスティバルも昨年は東北地方大地震で、ステージ部門を自粛した経緯があったが、多くの市民の来場もあり、今回は 2 年分のエネルギーで大変盛り上がり、生涯学習の拠点とし相応しい集い、ふれあい及び情報提供の場となった。

３．状況評価

（１）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	市民教室については今年度、ハーモニカ、古文書、中国語が新しく開講した。特に中国語とパソコンは終了期間がきても、自分たちで講師謝礼代、部屋使用料を出し合い、延長して習っていた。これが自主サークルの姿であり、他の教室も期待したい。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－１	

（２）効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	市民教室も分館ができ、昼間の本館利用、働いて昼間受講できない人のための分館と、棲み分けができた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
B	4 点

４．今後の方向性（課題と見直し）

（１）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

市民教室の受講生の固定化。新人とベテランのレベルの格差
高齢者教室受講生の減少

（２）改善・見直しの具体的内容

市民教室については、受講を来年度から連続 3 回までとし、4 年以上の人は新たに自主サークルをつくることした。自主サークルについては、支援措置を行う。

高齢者教室については、高齢者だけの止まらず、広く一般市民も対象とした教室にしたい。名称変更

５．政策に対する意見

（１）市民監査委員

市民教室、高齢者教室の参加人員は大体目標を達成しており良好。生涯学習フェスティバルは参加者が目標に対してはるかに多く、ふれあいや情報提供・交換の場になってよかった。今後、改善・見直しを行う予定ということですが、市民教室、高齢者教室が益々発展しますよう願っている。

いろんな教室があり、利用者も多いので市民のためにはすばらしい場所だと思う。これからもいろんな事業の展開を望む。

（２）教育委員

市民教室はこれまでの問題点の解消に尽力されたことに感謝する。趣味教養的なことばかりでなく、時代の変化に応じた講座等の開設も視野にいれ、目標を達成していただきたい。各室の整備に加えて、掲示物等のレイアウトの工夫等も願う。

教育委員会重要政策実施状況評価表

政策事業名	１０	市民スポーツの推進	
事業期間	平成２２年度から平成２４年度	担当部署	生涯学習課

１．政策の目的・目標

スポーツによって、健康で生きがいをもたらすため、市民それぞれのライフスタイルや目的に応じたスポーツ活動の振興に努める。

２．投入経費と指標

（1）【投入経費】

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
事業費　　（A）	9,133	6,105	8,000
換算人件費　（B）	22,680	22,680	22,680
投入経費　（A+B）	31,813	28,785	30,680
（参考）間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（2）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
目標	市民スポーツの推進	市民スポーツのさらなる推進と県体地元開催に向けた環境整備	市民スポーツの推進

■活動目標の説明（事業として何をするか）
本市においては、体育協会を中心とした各種目協会の活動、学校開放事業や地域の愛好者で組織したスポーツクラブなど様々な形でスポーツ活動が行われている。スポーツの振興を図るため、各地区体育振興会の組織充実に努め、市民駅伝や競り舟などコミュニテイスポーツを実施に努める。
また、県体地元開催に向けた環境整備を図る。

（3）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
実績	１、市民スポーツ大会の確実な実施 ２、体育指導委員によるニュースポーツの普及や地域におけるスポーツ活動の推進	１、市民スポーツ大会の確実な実施 ２、体育指導委員によるニュースポーツの普及や地域におけるスポーツ活動の推進 ３、平成 23 年度県民体育祭の開催準備	

■実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
1については、市民競り舟大会、市民体育祭、市民駅伝に加え、県民体育祭水俣葦北大会と実施してきた。大きな事故やトラブルもなく、市民の楽しそうな笑い声が今でも耳に残るような大会ができたと考えている。特に競技スポーツとしての県民体育祭では、男女とも大きく順位を上げた。
2については、健康づくりがブームとなっている現在、体育指導委員は市内のいろんなところに呼ばれて、大きな役割を果たしている。また、グラウンドゴルフなど、地域におけるスポーツ大会も盛んになってきている。
3については、施設整備や備品購入等、数年前から準備してきていたので、大きなトラブルもなく、開催することができたと考えている。

1．状況評価

（1）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	大会実施では、参加していただいた市民には、特に不満も事故もなく、満足していただいたものと考えている。 また健康志向の高まりにより、何らかの運動を行う市民が増えてきたと思っている。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－1	

（2）効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	関係団体や協力団体との打合せを経て、大会を概ね効率よくできたものと考えている。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
B	4 点

2．今後の方向性（課題と見直し）

（1）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

スポーツ大会については、従来の方向でその時代にあったものに変更しつつ実施していきたい。
スポーツの普及については、環境整備のほか、ニュースポーツの紹介、大会の実施を行うことで、皿なり普及に努めたい。

（2）改善・見直しの具体的内容

関係団体や協力団体と反省点を一つずつ克服しながら進めていきたい。

3．政策に対する意見

（1）市民監査委員

市民競舟大会、市民体育祭、市民駅伝等の各種スポーツ活動を通して市民の健康で明るいまちづくりに大きく寄与している。

（2）教育委員

体育指導委員の積極的な活動に敬意を表する。さらに市民全体がスポーツに親しめる雰囲気づくりを醸成する施策を、福祉等の健康増進施策と連携しながら一考していただきたい。
スポーツ関係団体のまとまりなど、市民の健康や生きがいに大きく成果が出ていると感じる。

教育委員会重要政策実施状況評価表

政策事業名	１１	第６６回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会開催	
事業期間	平成２２年度から平成２３年度	担当部署	県体推進室

１．政策の目的・目標

県民体育祭は、広く県民の間にスポーツを普及し、県民の健康増進とスポーツ精神の高揚を図り、明るく豊かな県民生活の進展に寄与することを目的に、県内各地で持ち回りにより開催されている。

水俣芦北地域で県民体育祭を開催することで、子どもから大人まで広くスポーツの振興を図り、地域住民の健康増進と各種目における競技力向上に繋げる。 また、県内から多くの方々を水俣芦北地域に来ていただくことで、宿泊等を通じた経済効果が期待される。

２．投入経費と指標

（１）【投入経費】

	平成２２年度	平成２３年度	
事業費　　（A）	2，093千円	8，456千円	
換算人件費　（B）	13，122千円	12，204千円	
投入経費　（A+B）	15，215千円	20，660千円	
（参考）間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（２）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	
目標	準備委員会設立 ※実行委員会設立準備の組織 実行委員会設立	大会開催（9月17日、18日） 大会報告書作成 実行委員会解散（総会）	

■活動目標の説明（事業として何をするか）
・大会開催に向け、母体となる組織の立ち上げ及び事務局業務を担当する。
・県教育委員会、県体育協会など関係機関との協議及び大会までの準備　・大会開催に向けた各種PR活動
・総合開閉会式（採火式を含む）の計画策定及び準備　・大会の運営及び総括
・大会報告書の作成　・実行委員会の解散総会（負担金の精算等）

（３）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	
実績	４月　準備委員会設立 ９月　実行委員会設立	９月　大会開催 10月　大会報告書作成 11月　実行委員会解散（総会）	

■実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
大会までの準備を含め概ね予定どおり業務を実施し、大会も円滑に運営された。
総合開会式及び各種目を実施するにあたり、地元の中高生をはじめ、多くの団体及び個人に参加していただき、市民協同で大会を開催することができた。 多くの市民に大会に係っていただき、スポーツに対する意識が高揚したことで、今後の健康増進に繋がることが期待できる。

３．状況評価

（１）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	総合開会式をはじめ各競技の実施にあたって、地元の中高生をはじめ、多くの市民の方々に参加してもらい、スポーツに対する関心を高めることができた。しかし、業者委託ではあったが、宿泊希望者数に水俣芦北地域内で対応しきれず、一部地域外への配宿となったことで、経済効果が減少した。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－１	

（２）効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	総合開閉会式をはじめ大会の全体的な運営は、水俣市、芦北町、津奈木町で組織する大会実行委員会が中心となり、各競技の実施にあたっては、県及び地元種目協会が運営主体となり、円滑な大会運営がなされた。　また、経費節減に努め、事業費を約２割強削減できた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6 点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4 点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2 点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1 点）

評価	点数
B	4　点

４．今後の方向性（課題と見直し）

（１）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

今回の大会で66回目を迎えた熊本県民体育祭は県内各地域を持ち回りで開催実施されており、開催郡市では人的及び財政的な負担が問題となっている。 大会が始まった当初は、スポーツの振興と併せ開催地域の競技施設等のインフラ整備、宿泊等による地域経済の活性化等の波及効果がみられたが、現在は　地方の厳しい財政状況もあって、施設や備品整備等も難しくなっており、道路網等の整備により移動時間が短縮され、宿泊等による地域経済の活性化も薄れてきている。

（２）改善・見直しの具体的内容

現在、熊本県のように地域(郡市)持ち回りでの開催形態は現在少なくなっており、九州各県では施設が充実している県庁所在地等での固定開催や、県内を幾つかのブロックに分けての開催が主流となっている。
現在の地域持ち回りでの開催は、開催地への人的及び財政的な負担が大きく、限られた施設で競技等を実施するため、競技運営が難しい状況もある。 今後は、県体育協会等が中心となり、設備等が充実した施設で安全且つ円滑に競技が運営できるよう、県及び県体育協会へ提案していく。

５．政策に対する意見

（１）市民監査委員

大会の準備・計画等が予定通り円滑に運営されてよかった。多くの市民が大会に関わってスポーツに対する意識が高揚したようだ。
大会の県内各地域の持ち回り開催実施についてはいろいろ問題があり、検討すべき。現今の諸事情にあった大会にすべき。
宿泊する場所も少なく、経済効果も限定的だったのではないだろうか。

（２）教育委員

事業が円滑に進み、大会が盛会に行われたことに敬意を表する。一方では課題も残されているので、大会の成果を多方面から評価し、今後のあり方を検討していただきたい。

教育委員会重要政策実施状況評価表

政策事業名	１２	給食センターでの食育推進・地産地消推進事業	
事業期間	平成２２年度から平成２４年度	担当部署	給食センター

１．政策の目的・目標

学校・地域・家庭と連携して、学校給食を生きた教材として活用した食育を推進する。また、生産者の顔が見える地場産食材を給食に使用し、旬の食材を使った水俣･芦北メニューなどの献立を実施して、地産地消を推進する。

２．投入経費と指標

（1）【投入経費】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
事業費　　（A）	１０４，８９３	９２，９６２	
換算人件費　（B）			
投入経費　（A+B）	１０４，８９３	９２，９６２	
（参考）間接事業費			

※換算人件費は事業に従事した延べ日数に 27 千円を乗じて算出すること
※（参考）間接事業費は、市費、国県補助以外で、事業に行うにあたり投入された経費を記入

（2）【活動目標】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
目標	１．食育の推進 食に関する指導､見学､視察、試食会、研修会の実施 ２．地産地消の推進 地場産食材の増加	１．食育の推進 食に関する指導､見学､視察、試食会、研修会の実施 ２．地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実	

■活動目標の説明（事業として何をするか）
食育の推進として、食に関する指導を実施し、見学、視察、試食会を実施し、給食センターを食育の拠点として活用する。また、地場産食材を使用した給食「ふるさとくまさんデー」、水俣・芦北メニューを実施し、菜種の収穫体験学習を行い、生産者グループと連携した地産地消を推進する。

（3）【実績】

	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度
実績	１．食に関する指導５５回、見学１１回、視察１０回、試食会２７回実施 ２．地場産食材納入品目３８ 収穫体験学習２校実施	１．食に関する指導４４回、見学１５回、視察９回、試食会２０回実施 ２．地場産食材納入品目４０ 収穫体験学習２校実施	

■実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）
食育の推進としては、食に関する指導を全校で実施し、見学、視察、給食懇話会などの試食会を昨年度とおなじような回数で実施して、施設の充実した活用ができた。地場産食材納入品目は新しく冬瓜、南瓜（栗豊）が加わり４０品目となり、収穫体験学習では、菜種収穫に加えて、新たに菜の花の新芽摘みの体験学習も２校実施することができた。さらに、これまでの成果として、熊本県学校給食表彰を受賞することができた。

3．状況評価

（1）成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	食育の推進について、目標にあげた取り組みについて、実施できた。施設の活用としては、1・2年生や就学前の幼稚園・保育園児の見学・試食会を実施し、充実した活用ができた。また、新しい取り組みとして地元食材を使った献立を保護者と一緒に考えた給食を実施した。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	－1	

（2）効率性		点数	理由
	大変効率よくできた	3	学校、関係各課、保護者、生産者グループと連携した活動ができた。
○	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

A　かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6点）
B　一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4点）
C　改善若しくは早急の見直しが必要なもの（3～2点）
D　当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～-1点）

評価	点数
B	4　点

4．今後の方向性（課題と見直し）

（1）課題と方向性		維持向上	改善	見直し	休止	終了

今後も、給食を生きた教材として活用した食育に取り組み、生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進に取り組んでいく。さらに地産地消を推進して、旬の食材を使った安全安心でおいしい魅力ある給食を目指す。

（2）改善・見直しの具体的内容

食育・地産地消の推進事業について、学校・地域・家庭や関係各課と連携して、取り組みを充実させ、給食センターからの情報を発信する。

5．政策に対する意見

（1）市民監査委員

食に関する指導（見学、視察、給食懇話会などの試食会など）、地場産食材納入品目の増加、収穫体験学習など意欲的に取り組まれ、立派な食育推進や地産地消推進がなされている。推進事業の成果が認められ、熊本県学校給食表彰の受賞はすばらしい。

最近は、地元生産者の高齢化や猪の被害等で、野菜の提供も難しいようだ。

今後の方向性は改善につけているが、このまま維持でよい。

（2）教育委員

食育を推進して行くうえで給食の果たす役割は大きく、その中心となる給食センターの取り組みに期待している。地元の生産物を利用することは、生産者のやりがいにもつながり、地域の活性化に貢献できるので、さらに進めていただきたい。

地産地消の推進は言うまでもないが、旬の食材を利用したメニュー開拓で、食からの地元愛も教育につながっていくことを願う。